

e ラーニングの受講説明書

平成 2 3 年 1 2 月
日本商工会議所

1. e ラーニング (E-LEARNING) とは.....	3
2. e ラーニング講座の内容.....	4
3. 標準学習時間 (学習プログラム時間の累計)	5
4. 学習環境.....	5
5. 受講の進め方 (第 1 段階、第 2 段階通)	5
6. 学習方法.....	6
7. 問い合わせ先.....	9

1. e ラーニング(e-learning)とは

PC とインターネットを中心とする IT 技術を活用した教育システムを e ラーニングと呼びます。米国をはじめとして世界各国で研究が行われていた CAI (Computer Aided Instruction(コンピュータによる支援教育)) は、当初、教材を CD-ROM など配布する形体が主流でしたが、配布コスト、配布後の内容修正の困難さ、学習進捗の一括管理の難しさ等の問題がありました。

その後、インターネットや企業内のネットワークの広がりと共に、教材をインターネットで配信する WBT (Web Based Training) や、学習者のコンテンツ管理やスキル目標の設定、学習進捗状況等を一元的に行う機能を提供する LMS (Learning Management System (学習管理システム)) を使用したシステムが主流となっています。e ラーニングは、講師と学習者が教室に集まる集合教育と違って、時間と場所の制約を受けませんので、コンピュータとネットワークさえあれば、いつでもどこでも学ぶことが可能です。

その他にも e ラーニングのメリットとして、

- 講師の質の違いに学習者が影響されない
- 個々の進捗にあわせて、何度でも繰り返し学習ができる
- 学習者の理解にあわせたきめ細かな学習の設定もができる
- 最新の内容を早く、安価に配信できる
- 多くの学習者に同一の教材を一律に提供することができる
- 職場を離れずにすむので、集合研修に比べて、時間・間接コストの削減ができる

等があげられます。

しかし、e ラーニングが今後のすべての集合研修に置き換えられるものではありません。実際に、ブレンディッド・ラーニング (Blended Learning) と呼ばれる e ラーニングと集合研修を組み合わせた形態は、e ラーニング単独で実施するケースに比べて教育効果面で成功を収めている例が多く報告されています。e ラーニングに適した学習と適していない学習を見極めて、それに応じた形態や方式を使い分けることが重要になります。また、e ラーニングは、特に企業内において、単なる教育ツールとしてだけでなく、ナレッジマネジメントやパフォーマンス・サポート・システムのインフラとしても期待されています。

【日本イーラーニングコンソーシアム広報委員会編『e ラーニングの導入の検討に役立つ e ラーニング用語集』より引用】

2. e ラーニング講座の内容

① e ラーニング指導法

e ラーニングの学習支援者に求められる e ラーニングの特徴、他の教育方法との違いや受講者を学習修了までに導くために必要な知識や理論について学ぶ。

② e ラーニング指導法（2）

メンタガイドの作成方法や受講者を学習修了までに導くための技法などについて学ぶ。

③ 指導者のための教育技法

指導者に求められる心構えや指導者像、指導方法の種類と特徴などの基本的事項について学ぶ。

④ 指導者のための教育技法（2）

指導者に求められる指導法のテクニックやレッスンプランの作成方法について学ぶ。

※講座内容の詳細は、

「e ラーニングコンテンツ一覧」(https://www.cin.or.jp/ssl/gyomu/master/shiryo/e-learning_contents.xls)を参照してください。

※「e ラーニング指導法（2）」では、下記の資料を用いますので、ダウンロードしてお手元にご用意ください。

項目名	モジュール名	ファイル名
オンライン カウンセリング技法	ロールプレイ① (承認の技法)	https://www.cin.or.jp/ssl/gyomu/master/shiryo/role-playing1_Q.doc
		https://www.cin.or.jp/ssl/gyomu/master/shiryo/role-playing1_A.doc
	ロールプレイ② (質問の技法)	https://www.cin.or.jp/ssl/gyomu/master/shiryo/role-playing2_Q.doc
		https://www.cin.or.jp/ssl/gyomu/master/shiryo/role-playing2_A.doc
コース評価の データ分析	データを分析する (複数データの扱い)	https://www.cin.or.jp/ssl/gyomu/master/shiryo/Databunseki.xls

3. 標準学習時間（学習プログラム時間の累計）

- ①e ラーニング指導法 約6時間
- ②e ラーニング指導法（2） 約4時間
- ③指導者のための教育技法 約2時間
- ④指導者のための教育技法（2） 約1.5時間

※ 理解できない部分を繰り返し学習したりすることで、学習時間は受講者により異なります。

4. 学習環境

e ラーニングは、インターネット回線を通じて学習コンテンツが配信されますので、下記の動作環境の元で学習していただくことを前提としています。

CPU	Intel MMX Pentium 500MHz 以上
メモリ	128MB 以上
ハードディスク	空き容量 1GB 以上
ディスプレイ	1,024×768 65,536 色以上
インターネット回線	ADSL 8Mbps 以上
OS	Windows 2000／Windows XP／Windows NT
ブラウザ	Explorer 5.5 以上、Windows Media Player 9 以上

5. 受講の進め方

受講者申込（受講料の支払）

↓

ID、Password の取得

↓

学習目標・学習計画の設定

「2. e ラーニング講座の内容」にあります「e ラーニングコンテンツ一覧」を参考にご自身で学習スケジュールを立ててください。

↓

学習開始

↓

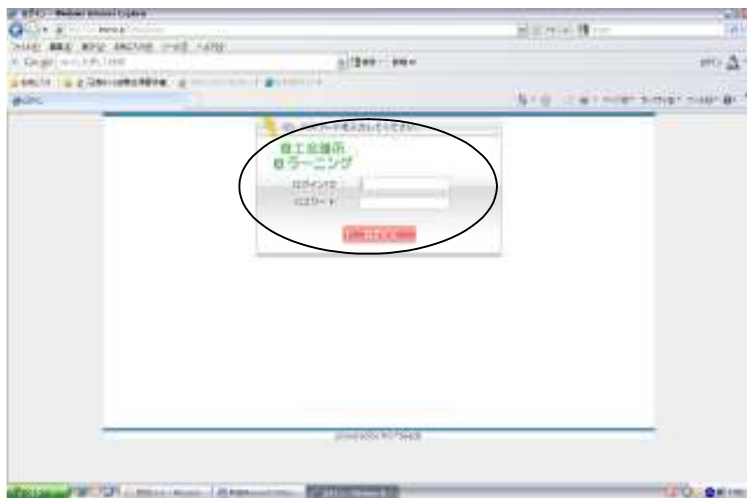
学習修了

※e ラーニングコンテンツは集合研修と組み合わせた学習形態になっていますので、e ラーニング修了後、指定の集合研修を受講していただきます。

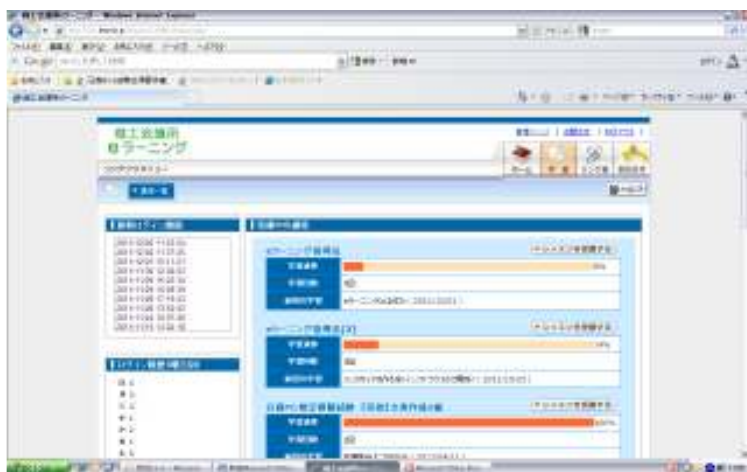
6. 学習方法

e ラーニング学習サイト : <http://cci.learnin.jp>

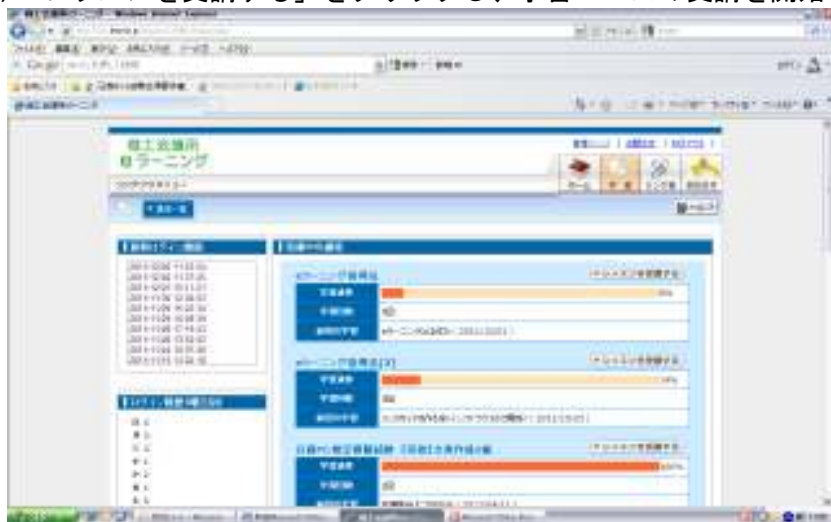
(1) 「e ラーニング学習サイト」に ID、Password を入力し、ログインしてください。



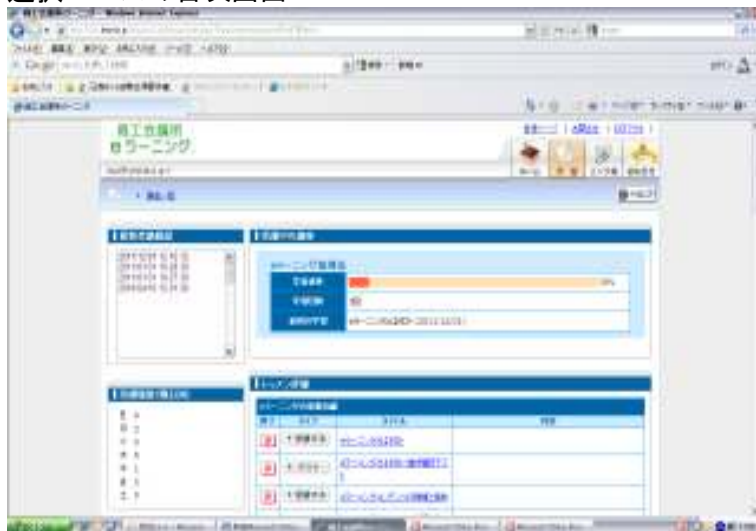
(2) コース選択の画面で、学習するコースを選択してください。



(3) 「レッスンを受講する」をクリックし、学習コースの受講を開始してください。



(4) 選択コースの目次画面

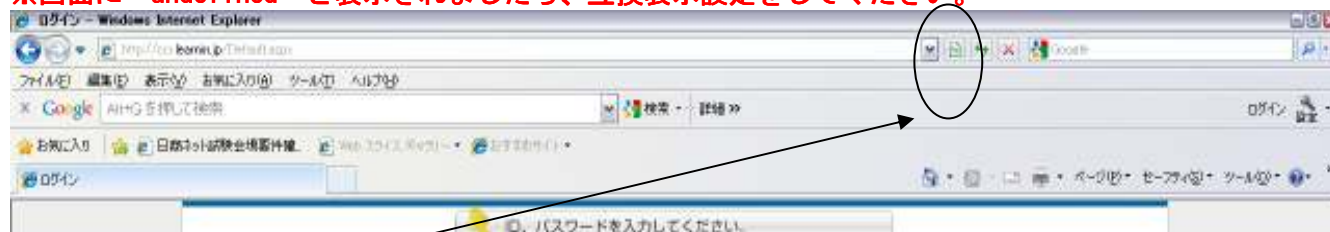


- ・ 学習項目は、いくつかのモジュール（1モジュール 10～20 分程度）に分かれています。各モジュールは、講義（テキスト）と講義に対する確認テスト（テスト）で1セットになっています。
- ・ 学習項目およびモジュールの受講の順番は特に決められておりませんが、上位にある項目から順番に受講していただくのが基本の流れです。受講後、理解しにくかった項目やモジュールは、学習期間内であれば何度でも 受講して、繰り返し学習することが可能です。

(5) 講義の受講を開始します。

- ・当該モジュールの内容は、左下に表示されています。
- ・右側のスライドを見ながら受講し、メモを取るなど、必要な場合には、「一時停止ボタン」をクリックして、講義を一時停止することができます。
- ・講義が終了すると、画面は停止しますので、右下の終了ボタンをクリックし、学習を修了してください。

※画面に” undefined” と表示されましたら、互換表示設定をしてください。



URL バーの隣のこのアイコンをクリックしてください。

一時停止・再生ボタン

モジュールの内容

終了ボタン

付箋：当該モジュールに対するメモを書くことができます。メモを書くと、学習項目の表示画面に付箋が付されます。

質問：当該モジュールに関する質問がある場合には、ここから質問内容を送信します。

(6) モジュールを終了した画面



目次へ: 学習項目の画面
に戻ります。

次の項目へ: 当該モジュール
の確認テストに進みます。
す。

(7) 講義修了後に、当該モジュールの確認テストを受けてください。



解答を選びます。

次へ: 解答後、次の
問題に進みます。

7. 問い合わせ先

日本商工会議所事業部 早川 圭

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30

芝NBFタワー

電話: 03-6402-6153 FAX: 03-6402-6150

E-Mail: hayakawa_kei@jccci.or.jp